

FOYER

Theater
conciierge ?

Special feature
劇場のコンシェルジュ
施設サービスグループ主任 池島 茂伸

チェコ・フィルハーモニー管弦楽団
指揮者セミヨン・ビシュコフ
スメタナ「わが祖国」を熱く語る！

知的・発達障がい児(者)にむけての劇場体験プログラム
劇場って楽しい!! in 熊本

文化事業のご案内

- 9/28 劇場から全スポーツ選手にエールを！
スポーツと音楽オーケストラコンサート 九州交響楽団公演
9/28(土) 開演14:00 | コンサートホール
S席3,000円 A席2,000円 B席1,000円
【お問い合わせ】熊本県立劇場 096-363-2233
- 10/29 チェコ・フィルハーモニー管弦楽団
10/29(火) 開演19:00 | コンサートホール
SS席12,000円 S席10,000円 A席8,000円 B席6,000円
【お問い合わせ】熊本県立劇場 096-363-2233
- 10/5 劇場って楽しい!! in 熊本
11/9 ①映画体験(申込締切)②コンサート体験(10/18締切)
①映画:10/5(土)②コンサート:11/9(土) 開演14:00
演劇ホール | 各回500円 定員200名
【お問い合わせ】熊本県立劇場 096-363-2233
- 10/14 【ネットワーク事業】熊本交響楽団 あさぎり公演
10/14(月・祝) 開演14:00 | あさぎり町須恵文化ホール
一般1,000円 高校生以下500円
【お問い合わせ】あさぎり町須恵文化ホール 0966-45-5511
- 10/25 【共催事業】京&三勇士 ピアノ ジョイントリサイタル
10/25(金) 開演19:00 | コンサートホール
一般3,000円 高校生以下2,000円
【お問い合わせ】I・M企画 090-1874-6712(有島)
- 11/2 【共催事業】第58回熊本県新人演奏会
11/2(土) 開演18:15 | コンサートホール | 一般1,000円
【お問い合わせ】熊本県文化協会事務局 096-383-0600
- 11/2 【ネットワーク事業】栗コーダーカルテットファミリーコンサート
～山鹿市民交流センター開館5周年記念事業～
11/2(土) 開演14:00 | 山鹿市民交流センター文化ホール
大人2,000円 中学生1,000円 3歳～小学生500円
【お問い合わせ】山鹿市民交流センター 0968-43-1081
- 11/6 【ネットワーク事業】和楽器演奏集団・独奏
11/6(水) 開演14:00 | 水俣市文化会館
一般1,000円 高校生以下500円
【お問い合わせ】水俣市文化会館 0966-62-3504
- 11/24 邦楽新鋭展 vol.5
～くまもと全国邦楽コンクール最優秀賞受賞者演奏会～
11/24(日) 開演14:00 | 演劇ホール | 2,000円
【お問い合わせ】くまもと大邦楽祭実行委員会 096-355-5235
- 12/17 【共催事業】劇団四季ミュージカル「エビータ」
12/17(火) 開演18:30 | 12/18(水) 開演13:30
演劇ホール | S席8,800円 A席6,600円 B席3,300円
【お問い合わせ】劇団四季 0570-008-110
- 12/22 【共催事業】ベートーヴェン「第九」
12/22(日) 開演14:30 | コンサートホール
指定席4,000円 自由席3,000円 自由席高校生以下1,500円
【お問い合わせ】熊本県民第九の会事務局 090-2851-1007

※各種割引があります。詳細はこちら



熊本県立劇場
KUMAMOTO PREFECTURAL THEATER

【企画・発行】
公益財団法人 熊本県立劇場
熊本市中央区大江2-7-1 〒862-0971
www.kengeki.or.jp

【編集・制作・印刷】
株式会社 ジャム
熊本市中央区練兵町45早野ビル1階 〒860-0017
www.jam-cf.com

熊本県立劇場季刊誌 ほわいえ 2019 autumn 発行日:2019.9.20 ※掲載内容は9.10現在のものです。

その場、その時にしか
味わえない日常の中の「非日常」を
陰で支える。



Special feature

劇場のコンシェルジュ

施設サービスグループ主任

池島 茂伸 [いけしましげのぶ]



熊本県立劇場には、コンシェルジュ
がいます。コンシェルジュ、と聞けば、ホ
テルや百貨店、レストランなどでお客
様からのさまざまなリクエストに対応
する接客スタッフを思い浮かべると思
いますが、「劇場」と「コンシェルジュ」は
なかなか結びつかないかもしれませ
ん。ホテルや百貨店などのコンシェル
ジュは、お客様のために、あらゆる手
を尽くしてリクエストに応える接客の
プロフェッショナルです。

一方、劇場のコンシェルジュはお客
様の前に登場することはあまりあり
ません。もし、お客様の前にいたとし
ても、きつと気づかれないと思います。劇
場のコンシェルジュは、劇場に足を運ん
でいただいたお客様の目の届かないと
ころで、催事の主催者や、ホールのリ
用者のリクエストにお応えする運営面
でサポートしていくスタッフのこと。主
催者や利用者とマンツーマンで、陰で
手となり足となり支えていく役割を
担っています。今回の「ほわいえ」の特
集は、いつもは表に出てこない県劇の
劇場コンシェルジュに光を当てて、その
仕事についてご案内してまいります。

8月11日に開催された熊本ユースシンフォニーオーケストラ定期演奏会前に、指導者である山口邦子さんと

Theater concierge ?



担当コンシェルジュは公演内容をしっかり把握することが求められる

公演の感動につながる コンシェルジュの役割。

公演ごとに専属のスタッフを配置するコンシェルジュサービスを、熊本県立劇場がはじめたのは2006年のこと。導入後12年が経っていますが、このようなサービスを行っているのは全国の劇場でも珍しく、導入当時は九州において唯一の施設でした。通常の劇場では、主催者や利用者との打ち合わせを舞台スタッフが行いますが、コンシェルジュサービスは、ひとつの公演に対して、ひとりの専属スタッフが、舞台まわりだけな

く、申請や運営面でのサポートを行います。全国的に見ても県劇は先駆けてサービスを導入しているので、導入を検討している各施設からの研修や見学が後を絶ちません。

現在、コンシェルジュとして公演をお世話する職員が6人常駐しています。具体的な役割は、コンサートホール、演劇ホールを利用される方に対して、公演までの各種申請などのアドバイス、広報、受付まわりのサポート、代行サービスの手配、危機管理の対応など幅広い情報を提供し、その段取りを支援することです。担当となったコンシェルジュが公演当日までずっとサポートするので、主催者や利用者にとっては安心して公演の運営に集中していただくことができます。

6人のコンシェルジュのうち、唯一の男性スタッフである池島茂伸は、県立劇場の職員として入職した2018年からコンシェルジュとして数々の公演をサポートしてきました。「コンシェルジュは公演の主催者や利用者が一番近くで公演までの準備を見ていきます。わずかな時間の本番のために、何ヶ月も練習を重ね、長い期間をかけて準備される方たちをサポートしていると、出演される方たちのいわゆる人生の中の印象的なシーンに関わっていると実感しま

す。それが、私にとっても刺激になります」とコンシェルジュの仕事の醍醐味について語ります。

県劇のコンシェルジュサービスの特徴として、すべての公演について、担当のコンシェルジュが催事の記録である「カルテ」を残していくシステムがあります。これは、次の機会にどのスタッフが対応しても、以前の公演の内容、その準備の手順などが理解できるようにする情報共有システムです。12年間で積み重ねてきたコンシェルジュサービスは、このカルテによる情報共有によって、より充実したサービス提供につながっています。「舞台芸術を広めていくためには、もっと多くの方に県劇を利用してほしいと思います。そのサポートをするために、私たちコンシェルジュはいます。初めての方でも、使い方、申込みの方法など、いろんな点でアドバイスをできますので、まずは気軽に相談してください」。



細かなことの積み重ね。 それが「非日常」をつくりだす。

演劇や音楽の公演は、日常の中の「非日常」。その場、その時間でしか味わうことができない感動を、会場に居合わせた人たちが共有できる「非日常」の空間です。主催者や利用者が感動的な場、時間を、会場のお客様に提供できるよう、安全に、そして確実に、問題なく、公演の運営をサポートするために劇場のコンシェルジュは存在します。「例えば、スモークを使用する演出がある場合、火気使用申請を出す必要があります。これをすっかり忘れてら、

大事な場面でスモークが使えなくなることとなります。感動の場面を生み出すためには必要なものなのに、です。公演の内容によって提出すべき申請書類はかなりの数があるものです。公演内容を把握している専属のスタッフがいたら、申請のタイミング、必要書類についてのアドバイスを事前にできます」。

細かなことの積み重ねが、公演の成功につながり、非日常の感動を生み出します。「公演当日の受付まわりのサポートも私たちの仕事のひとつですが、その際に公演を待つお客様の一人ひとりの表情を見ることが出来ます。これからはじまる公演の前に、みなさん

ワクワクした、期待いっぱい顔で待たれています。その様子を見ると、期待に応えられるように主催者の方たちが公演に集中できるように環境をお手伝いしたいと思いますし、自分自身もその列に並んで客席で見たい、という気持ちにもなります。その感動のシーンを多くお手伝いすることで、劇場にたくさんの方たちが足を運んでくださるような、また訪れたいと思えるような場づくりをしていきたい。そして、熊本が盛り上がりつつあったら、と思います」と語る池島。これは、劇場のコンシェルジュ、そして県劇のスタッフすべての共通の想いでもあります。



県劇自主事業案内
KENGEKI
KANGEKI

- ①集中して鑑賞できるように、公演は約1時間
- ②定員を少なめ&自由席にして、パーソナルスペースを十分に確保
- ③字幕や手話通訳など、多様なコミュニケーションツールを準備
- ④防音用イヤーマフの貸し出し ※先着5人
- ⑤安心できるように、看護師による見守りあり

Highlight

知的・発達障がいがある人(者)にむけての劇場体験プログラム
劇場って楽しい!! in 熊本

知的・発達障がいがある人(者)に「劇場」を体験していただき、芸術や文化に触れる機会を増やすことを目的とした劇場体験プログラムを10月、11月に開催いたします。

劇場は、日常生活の環境とは大きく異なる空間です。音の大きさや響き、演出による照明の明暗、鑑賞者としてのルールなどを、映画やコンサートを鑑賞しながら学んでいただくプログラムで構成されています。

鑑賞者の声

この公演は、国際障害者交流センタービッグ・アイ(大阪府)が企画・制作し、2014年から全国各地で開催されています。これまでにたくさんの方が鑑賞され、劇場の楽しさを実感されています。これまで鑑賞されたお客様の声を、ここで紹介します。

■まわりに、声を出したり、叫んだり、走り回ったりしている人たちがいたのがかえって安心感につながったのでしょか。「ここは叫んでも走っても、大丈夫なんだ。許されるんだ」と思ったことで、緊張感がほどけ、安心して鑑賞できたのではな



上: 10月5(土)映画体験「パンダパンダ」
下: 11月9(土)コンサート体験「チアーストリオコンサート」



■甲子園での高校野球、吉本のお笑い、映画、ボウリング、カラオケなど、息子が小さい頃から家族と一緒に楽しもうとさまざまな経験をしてきました。恥もいっばいいたが、実践を通して体験させることの大切さを痛感している。

■とにかく統制ばかりの日常なので、最低限のルールを守ること以外は「本人が楽しく!!」を優先できた環境があった。

(ビッグ・アイ制作「劇場って楽しかった!」より)

第1回 映画体験 ※応募は締め切りしました
日時 2019年10月5日(土) / 開場 13:30、開演 14:00
「パンダパンダ 雨ふりサーカス」
「ひつじのショー- たつきゅうのしあい」 ※本編:日本語字幕
会場 演劇ホール / 全席自由 500円 ※4歳以上有料
定員 200名(要事前申込・先着順)

第2回 コンサート体験 ※10月18日(金)応募締切
日時 2019年11月9日(土) / 開場 13:30、開演 14:00
「チアーストリオコンサート」
出演 チアーストリオ(辻由美子/ソプラノ、亀子政孝/コントラバス、春日香南/クラリネット)、園田佳代(ピアノ)
会場 演劇ホール / 全席自由 500円 ※4歳以上有料
定員 200名(要事前申込・先着順)



セミヨン・ビシュコフ ©Marco Borggreve

Interview

指揮者セミヨン・ビシュコフ
スメタナ「わが祖国」を熱く語る!

この秋の目玉公演!世界トップクラスのオーケストラ「チェコ・フィルハーモニー管弦楽団」が、新音楽監督・首席指揮者のセミヨン・ビシュコフ氏とともに県劇にやってきました。久しぶりの来県となるチェコ・フィルがビシュコフ氏の指揮でお届けするスメタナ/連作交響曲「わが祖国」。ビシュコフ氏自身が、この特別な作品を自分の内面に取り入れたいという強い思いを語りました。

「わが祖国」は、特別な生き物のような楽曲です。

「モルダウ」〜「わが祖国」よりは、世界の誰もが知っていて、皆に愛されている曲です。曲名を知らなくとも、誰もが一度は聴いたことがあって、メロディを認識できる曲でしょう。

今回の公演では「わが祖国」を全

曲演奏します。「わが祖国」は、特別な生き物のような楽曲です。チェコの人々にとっては、「わが祖国」は国歌のようであり、聖書のようにもあります。この曲から、人々の心の中にある、独立への渴望、国の存続にかける願いを感じ取るからだと思います。そのため、この曲はチェコでは、人々の気持ちに寄り添う特別な曲なのです。

そしてなぜこの曲が普遍的な曲であるのか。それを理解するのは簡単です。英語では、よく「わが国」と訳されていますが、それは少し違って、「わが祖国」が正しいと思います。フランス語では、Patrie(祖国)、イタリア語ではPatria(祖国)、ロシアではMotherland(母国)、ドイツでは、Fatherland(父祖の国)と訳されるように、つまり皆にとっての祖国、また、こうあって欲しいと思う国の姿についての曲なのです。私達皆が愛する唯一の祖国のことであるからこそ、大変普遍的な作品なのです。

待望の熊本公演でのプログラムは、なんと名曲「ウルタヴァ(モルダウ)」を含むスメタナ/連作交響曲「わが祖国」全曲! 名門オーケストラが奏でる、温かく美しい響きをご堪能ください。

セミヨン・ビシュコフ指揮
チェコ・フィルハーモニー管弦楽団
日時 2019年10月29日(火) / 開場 18:15、開演 19:00
会場 コンサートホール / SS席12,000円、S席10,000円、A席8,000円、B席6,000円 ※25歳以下、障がいがある方は3,000円引き



チェコ・フィルハーモニー管弦楽団
©Petra Hajska



まなびの風景

SCHOOL SQUARE

阿蘇市立波野中学校 「神楽クラブ」

9月7日、阿蘇市で開催された第41回「少年の主張」の会場で波野中学校の神楽が披露された

日本の神話「天の岩戸」の神事を主体に、建国の大意を広く伝えるために250年以上前の明和の時代にはじまったとされる神楽。宮中で奉納される厳かな御神楽（みかぐら）と日本各地の地域に伝わる里神楽とあり、熊本県内でも各地域に伝承芸能として伝わっていました。

時代を経て数少なくなった中でも、小さな地区ながら保存会、小学校、中学校と、次世代へ神楽の伝承に力を入れているのが、阿蘇市波野の中江岩戸神楽です。この中江の岩戸神楽と熊本県立劇場との関わりは深く、今から30年前、神楽全三十三座（いわゆる33シー）をわずか十数人の保存会メンバーで24時間ぶっ通しで上演を果たしたことに遡ります。三十三座の中でもほとんど上演されていなかった座もあり、当時の古老のかすかな記憶をもとに、一年間の準備期間で三十三座、見事復活を遂げました。この上演をきっかけに、中江地区での神楽保存への気運が高まり、子ども神楽がはじまり、若い世代への伝承に力を入れるようになったといえます。

30年前の24時間ぶっ通し、 神楽全三十三座上演。

中学校の部活動として 神楽を伝承。

阿蘇市立波野中学校にある「神楽クラブ」は、中江の岩戸神楽を伝承する部活動。全校生徒29人のうち13人が所属し、その全員が「おもしろくて続けている」というほど、地元の伝承芸能への関心の深さがうかがえます。

神楽クラブの部長を務めるのが、3年生の岩下真大（まひろ）くん。小学2年生の頃から子ども神楽に入り、現在では部活動の傍ら神楽保存会の活動にも参加しています。神楽に興味を持ったきっかけを聞くと、「小さい頃、赤い顔のお面がものすごく怖かった。ただ、その恐怖が迫力のある舞だと自分の中で印象が変わっていったから」と答えてくれました。幼少時に追いかけて泣かされた赤いお面を、今では自分で被って舞う側に。「お面の視界の狭いところから観客の反応を見るのがおもしろい。自分たちがこの神楽をつないでいかないといけないと思います」と語る岩下くんは、岩戸神楽が次世代につながる光が見えました。

岩下真大さんと担当の山本先生



神楽フェスティバル
日時 2019年10月5日(土) / 10:00~21:00
会場 道の駅波野「神楽苑」
高校生以上700円 / 中学生以下無料
※入退場自由



利用団体紹介

PLAYERS SQUARE

オペラ専門の合唱団とオペラ専門の管弦楽団を立ち上げ、2010年にイタリアの指揮者を迎えて挑んだ「Otello」公演後、この2団体を統合し2011年に設立された「ラスカーラ・オペラ協会」。代表を務める岩本貴文さんは、大学で音楽を学び、東京でオペラの舞台で活動した後、オペラの本場イタリアへ。特に発声法を学ぶために8年間ミラノで過ごした経緯を持っています。

「オペラ歌手は自らの体を楽器とします。その発声法であるベル・カント唱法を体得しなくてはイタリアに渡りました。本場の土を踏んで、食べものを食べて、生活をしながら学んでくる路上のケンカの声さえも、勉強になりました(笑)」と岩本さんはその頃のことについて振り返ります。帰国後、東京でオペラ出演するも「故郷

で何か役に立ちたい」との想いから熊本で活動をはじめました。それが、前述した合唱団と管弦楽団の設立でした。

「ラスカーラ・オペラ協会」では毎年開催している「親と子のオペラ鑑賞会」は本物の音、生の声をお子様達に感じて欲しいと、2012年からはじめました。感情を音で表現するオペラの醍醐味を、より多くの方に感じて欲しいとの想いのもと、クラシック音楽、特にオペラに親しめる公演を企画し、裾野を広げることが、熊本にオペラハウスをつくりたい、という想いで協力を立ち上げました。そのためには人、ソフトを育てていくことが大事だと考えています」との言葉通り、現在、ラスカーラ・オペラアカデミーでオペラ歌手の育成にも取り組まれています。

ラスカーラ・オペラ協会 感情を音で表現する、 オペラの醍醐味を。



ラスカーラ・オペラ協会 代表
岩本 貴文 [いわもと たかふみ]
平成音楽大学講師
熊本県文化懇話会会員



熊本にオペラ文化を広めるために、公演、教育、イベントなど幅広く活動している



喜歌劇「こうもり」ハイライト日本語上演
日時 2019年12月1日(日) / 開場 13:30、開演 14:00
会場 コンサートホール
全席自由 一般4,500円 / 大人ペア8,000円 / 親子ペア5,000円
※当日券各500円増。学生券は高校生以下。未就学児入場不可
演出 太田麻衣子

OPEN! BACKSTAGE

コラムでつなぐ交流の場

舞台さんのお仕事道具 カラーフィルター

舞台の照明では、大型の照明器具に色のついた透過式の耐熱シート、カラーフィルターを使い、様々な色をつけた光を演技者や舞台セットに当て、演出意図を表現します。このカラーフィルターには色の番号がついていて、照明の仕事はその番号を覚えることから始まりです。



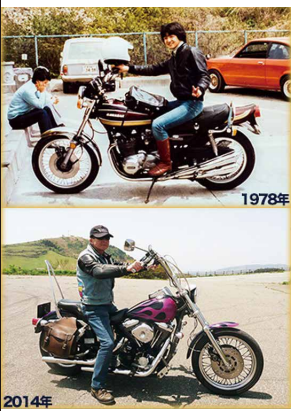
人の頃にはよく間違えたものです。また照明さん同士が自己紹介する時に、「私は真っ赤（#22）です」「オレは薄い緑色（#59）」と年齢を番号で表したりもします。新米さんはさわやかな色、ベテランになると渋い色になっていきますね。

県劇スタッフリレーコラム 施設サービスクラブ 岩永 宣治 いわなが せんじ

バイク乗り

私の愛車は、97年式ハーレーダビッドソンFXDLという22年目になるバイクです。アメリカ製のバイクはよく壊れるという印象かもしれませんが、エンジン本体は頑丈で一度も壊れたことがありません。しかし、小さな故障はたくさんあります。

購入して1年目には、セルモーターを回してもエンジンがかからず、バッテリー充電器でエンジンをかけ、バイク全体から煙が吹出し、燃え上がりそうになったことがあります。高速道路を走行中、山陽自動車道の山口県内のトンネル手前でバーンと爆発音をあげてエンジンストップし、死を覚悟したことも。その都度、レッカー車のお世話になっていました。バイク乗りにはトラブルはつきもので、そこまで含めて旅の楽しみです。私は長年、劇場の施設管理業務を担ってまいりましたが、バイクの運転も劇場の施設管理も「安全第二」です。



あなたの〇〇を見せてください サククス

今回は姉妹であるお二人から話を伺いました。

ともに10年前に出会った、響きの豊かさが特徴のこのサククス。それぞれ相談したわけでもないのに、同じセルマー製を同じタイミングで手にしていました。お互い楽器に求めるのは、柔らかな音色と吹きやすさ。このサククスの音色で「大人の色気」を表現したいと思っています。

県劇では毎年定期演奏会と熊本県吹奏楽コンクールで演奏しています。コンサートホールでの演奏中に和音の響きの中に入り込んだ時の心地よい感覚と演奏を終えたときに得る達成感。最近では、子育てが落ち着き、音楽に向きあう時間が増え「もっと上手になりたい」という情熱が湧いてきました。今後は、老人ホームや幼稚園などの演奏など新しいことにも挑戦しつつ、「このサククスと80歳になっても舞台上に立ちたい」という事を目標に音楽活動をしていきたいと思っています。

左：テナーサククス（セルマー スーパーアクション 80 シリーズ II） 右：アルトサククス（セルマー シリーズ III）



左：姉 大山由香 [おおやま ゆか]

碧落アンサンブルアルトサククス奏者

右：妹 小場佐真由美 [おばさ まゆみ]

碧落アンサンブルテナーサククス奏者

碧落アンサンブルの予定

11月3日(日)第21回熊本県一般吹奏楽団合同音楽祭

12月8日(日)九州アンサンブルコンテスト熊本支部予選

2月23日(日)結成40周年記念第30回碧落アンサンブル定期演奏会

慶弔用生花・装飾花専門店 フローリスト ヤマモト

PR

贈る人、場面に合った 「新鮮な」花束を。

花束は贈る相手によって作り方が変わり、花屋のつくる人の味が出るもの。その言葉通り、お客様の立場にたった装花をモットーに50数年の店主・山本和夫さん。横浜の花屋で技術を磨いた後、1986(昭和61)年に、縁あって県立劇場の目の前にオープン。以来33年間、劇場の前にある花屋としてお馴染みです。子どもの発表会の花束、プロの音楽家への花束と、贈る相手のことを想いながらつくることをモットーに33年間花の鮮度にこだわり、いつも新鮮な花を準備し、いきいきとした素敵な花束を提供してくれます。



フローリストヤマモト

tel.096-364-5932
営) 9:00~19:00 年中無休

劇場の中にあるレストラン レストラン七彩

PR

劇場のレストランとして2000(平成12)年にオープン。公演前後にお食事や飲み物を約100席の広々とした空間で楽しめます。現在は、県劇で開催される公演やイベントに合わせて営業するスタイル。開演時間に間に合う食事の提供が「使命」と語る支配人の真下さんおすめはカツ丼です。不定期ではあるものの、アーティストを呼んでライブやショーをレストラン内で企画・開催しています。10月26日土曜日は、ジャズボーカリストの青木カレンディナーショーが予定されているので、気になる方はお問い合わせを。

レストラン七彩

tel.096-3737060
営) 県劇の公演イベントに準ずるのをごお問い合わせを



寄稿

劇団きらら代表 池田 美樹

2019年8月9日
演劇ホール



「行くぜ！劇場探検隊」
県立劇場が毎夏実施しているお芝居仕立ての劇場バックステージツアー「行くぜ！劇場探検隊」。この「探検隊」を制作してくださっている池田美樹さんがメッセージを寄せてくださいました。

「あれ？舞台装置の色が変わった。なんで？」
小学校の演劇鑑賞会で彼はふと気付いた。「色が変わるのは光のせいかな！この光はどこから当ててるんだろっ？」そう思った4年生の彼は、物語そっこので90分ひたすら光の変化とその大元探しに夢中になった。
これは尊敬する照明家さんの「この仕事についたきっかけ」の話。そんなところを見ることがあるのか。そしてそれが将来の職業になったりもするのか。

「知ってる場所の知らないところを知って欲しい」。そんな思いで作っている「行くぜ！劇場探検隊」。お芝居仕立てで劇場の裏側を探検するこの企画、今年もたくさんの小学生と保護者の皆さんが参加して下さった。ピル・ム・シーリング・フライギャラリィ：普段は入ることのない場所を歩き、照明・音響・大ぜりの仕組み等を体験。後半は短編劇鑑賞。前半に知った明かりや音響装置の仕組みが愉快に組み込まれている。この企画から舞台スタッフのプロが生まれたら。職業にしないまでも、「なんでこうなってるんだろっ？」という疑問にそんな視点を持つてくれたら。

「なんだあれ！」。彼らの発見と感嘆に、私たちも毎年新たな「知ってる場所の知らないところ」をみつけることが出来る。探検万歳！